

# フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

爽りの秋がやってきた。新鮮な食材で一層食事が楽しめる時期だ。特に新米が炊き上がる時や、久し振りの豊漁により脂ののったサンマの焼ける時な

ど、普段は気にすることもないさまざまなおいしさを伝える香りが満ち溢れる。

フランスの作家マルセル・プルーストの小説「失われた時を求めて」の中で、主人公がマドレーヌを紅茶に浸した際に、香りで幼少時代を思い出す描写から、特定の匂いを嗅いだ時に、懐かしい思い出や当時の感情が呼び起こされる現象を「プルースト効果」と呼ぶ。嗅覚は5感の中で唯一、大脳の喜怒哀楽などをつかさどる部分とつながっていると言われている。おいしさを味わうだけでなく、

味覚が引き出す思い出と共にする食事も、秋の楽しみ方の一つにしてはどうだろうか。

毎日秋の訪れを伝える情報に、はっぱが枯れて今年紅葉を楽しめないと各地から伝わってくる。夏の猛暑が半年近く続いた状況で、季節が四季から二季となり、昔の春と秋が懐かしいと語ってしまふ事が無いように祈るばかりだ。

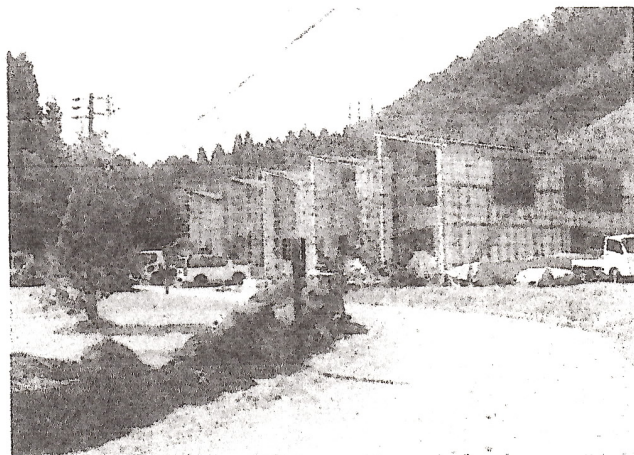
## 景観に見えないひびが広がらないように

日本の歴史では、景観はドイツ語の「ランドシャフト」の訳語として使い始めた学術用語で、今日では英語の「ランドスケープ」を

意識していると。景観とは、日常生活において風景や景色の意味に

景観はさまざまな時期、経緯、要素からなり、人が作ったものである「景観史」を意識した試みを紹介している。

景観を地域の財産として引き継ぐ責任は、今地域に生活する私たちの責任だ。その第一歩として、引き継ぎたい景観を地域住民に示していくことが求められている。無秩序の地域開発は地域そのものの魅力を失ってしまう事は明白だ。まずは地域の現状を見つめることから始めようではないか。江戸期の儒



岩岳・西山に多くの建築物、村内の多くの建築ラッシュ状態に今冬の除雪体制が心配になる

者、貝原益軒の「養生訓」に「病氣というものは、早く治せんとし

る。風景という器を壊さないよう用心せよと悟らすよつた。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)